

国語教育相談室

小学校

特集

新版教科書でつくる
新しい学び

わたしとことば

私たちは90年代を
生きるんだよね

光浦靖子

書写

習慣化
したいこと

国語指導

教科書との
出会いを、
楽しんで!!



99

光村図書

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、
(一社)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのって配布しております。

わたし
の
ことば

芸人 光浦 靖子
みつうら やすこ

私たちは90年代 を生きるんだよね



1971年、愛知県生まれ。プロダクション人力舎所属。幼なじみの大久保佳代子と結成したオアシズでデビュー。バラエティー番組、ラジオなどに出演するほか、舞台やコラム執筆など多岐にわたり活動。著書に『靖子の夢』(スイッチ・パブリッシング)、『ハタからみると、風日記』(毎日新聞出版)ほか多数。

彼

女は小学六年のとき隣のクラスに転校してきました。ショートカットの似合う、女子から見てもカッコいいと思うような子でした。すぐに人気者になった彼女に私は話しかけることもできず、廊下で歩く姿を、朝礼で隣の列に並ぶ姿を目で追っていました。

中学二年のとき同じクラスになり、私は彼女と仲良くなりました。私なんかを選んでくれるの？ すごく嬉しかったです。

中学生の女子はグループでわかれます。イケてるグループから地味なグループまで。彼女は、クラスでも一番目立たない子を「あいつ、面白いよ」と、グループの垣根なんか無視して仲良くしていました。なんでそんな子と？ 彼女に好かれていたその地味な子と接してみると、実際、面白い……。目から鱗でした。面白いことを見つけてるって、面白がるってすごい、と。もしかしたら、どこにでも転がってて、見つけた者も、見つけられた者もハッピーになる、すごいモノじゃないかって。お笑いの世

界のモノの見方によく似てると、後に知りました。中学三年のとき、彼女と些細なことでケンカし、口をきかなくなりました。もうこちらから折れることはできない、そんな意地の張り合いでした。そのまま高校三年間、違うクラスだったこともあり、よそよそしくすれ違うだけでした。私は彼女が好きでした。

90年代、私はひよんなことからお笑いの世界に入りました。毎日が刺激と興奮と悔し涙と自己嫌悪でした。共通の同級生から聞いたんです。彼女が「私たちは90年代を生きるんだよね」と高校を卒業するときに言っていた、と。又聞きその言葉が、なんかお守りのようになりました。予測もつかないこの流れに流されても、溺れねーぞ、と。彼女は私になっても、面白がってくれる、と。その彼女は三十代後半、亡くなりました。話したかった、聞きたかった山程のことはそのまま逃げとチャレンジの線引きがわからず、縮こまっている今の私を、彼女は面白がってくれるのかなあ。

わたしのことば
私たちは90年代を
生きるんだよね

光浦靖子

特集

02

新版教科書で
つくる新しい学び

授業リポート

「帰り道」(六年)

青山由紀×筑波大学附属小学校六年生

インタビュー

新しい教科書、どう使う？

——低学年編——

吉村あかね

インタビュー
新しい教科書、どう使う？

——中学年編——

大村幸子

インタビュー
新しい教科書、どう使う？

——高学年編——

野村真一

教科書で、書写力アップ！
習慣化したいこと

14

松本仁志

なるほど国語指導 16

16

教科書との出会いを、
楽しんで!!

作・画／あべかよこ

監修／輿水かおり

コラム

5年「想像力のスイッチを入れよう」
リライトにこめた思い

下村健一



特集

新版教科書で つくる新しい学び

4月から、令和2年度版教科書が使用開始されました。新版教科書には、新しい教材や、新しい工夫がいっぱい！今号では、そんな教科書の魅力を、授業レポート、先生方へのインタビューを通してお伝えします。



授業レポート 「帰り道」(六年)

筑波大学附属小学校
青山由紀 先生

×
六年生(四十名)

「帰り道」は、同じ出来事について、「1」では「律」の視点から、「2」では「周也」の視点から語られていることが、作品の大きな特徴です。また、等身大の登場人物たちの心情が、巧みな情景描写やキーワードなどから実感をもって子どもたちに伝わります。

登場人物たちの思いや考え、その変容といった作品の内容から、構成や描写などの作品の書かれ方まで、さまざまな角度から味わうことができる教材の実践を取材しました。

撮影：鈴木俊介

指導計画(全4時間)

第1次

1時

「1」のみの範読を聞き、気づいたこと、感想を話す。
「2」を配布・黙読し、さらに気づいたこと出し合う。

第2次

2時

「1」と「2」を比べて、それぞれの人物像を捉える。

3時

人物像の違いと二人の関わりをまとめる。二人は、「言葉」や「言葉にすること」に対して、どのような思いや考えをもっているか話し合う。

第3次

4時

二人それぞれの変容を捉える。
感想をノートにまとめる。

1時 語り手の違う物語と出会う

「1」と「2」の特徴的な構造をもつ本作品。青山先生は、まず「1」のみを抜粋したプリントを配布し、範読から授業を始めました。範読を聞き終わった子どもたちは、これまでに培った読みの力を使って、語り手が律であることや、さまざまな比喻表現、場所の変化、気持ちの変化など気づいたことを話し始めました。

まずは、比喻表現に着目し、キーワードである「みぞおち」に関わる表現を追うことで、律の気持ちの変化を大まかに押さえました。

「1」の内容を押さえたところで、先生は子

どもたちに問いかけます。

先生 みんなは律タイプ？ 周也タイプ？ 二人はどんな性格だと思った？

児童 律は気にするタイプ。

児童 周也はあっさり。気にしない。

子どもたちが口々に答えた後、先生は「2」を配布しました。夢中で黙読する子どもたちからは、「語り手が変わってる！」「周也も気づいてたんだ。」という声があがりました。

「1」「2」を一気に読まず、先に律の視点から大まかな内容を押さえたことで、視点が変わるおもしろさに引き込まれた子どもたちでした。

2時 二人の人物像を捉える

前時を受けて、「律」と「周也」がどんな「タイプ」かについて、話し合いが始まりました。

児童 「いつだって、マイペース」とあるから、律はマイペース。

先生 律は自分でマイペースって言ったの？

児童 周也から見るとマイペース。

先生が丁寧に視点を確認しながら進めます。

「律」と「周也」の違いがいくつか挙がったとき、Aさんが手を挙げました。

Aさん 違いじゃなくて、似ているところについてなんですけど……。律は引きずるタイプで、周也は、「軽くつつこんだつもりが、律の顔を見て、重くひびいてしまったのが分かった」の後、野球の練習を休んじゃうくらいだから、引きずるっていうのかなんか……。

先生 引きずっているのは律だとみんな言っていたけど、Aさんは違うことを言っているよ。

児童 周也も気にしている。

先生 どこから気にしていると言ってた？

児童 野球の練習を休んだところ。

先生 練習休んだんだっけ。最初の話だと……。

児童 律には、監督が急用って言っていたけど、本当は休んでいる。

先生 実は休んでいた。

児童 実はいいやつ。

児童 実は引きずる性格。

「実は」を切り口に、さらにわかったことが



2時間目からは、「1」を上段、「2」を下段に配置したプリントを使用。

もしれないね。

先生は、あらかじめ用意した「律」と「周也」の会話を「誰の言葉かな」と問いかねながら黒板に貼り始めました。「1」「2」のどちらの視点にも出てくる会話は、その書かれ方の違いを押さえます。一通り確かめると、「二人にとって、『言葉にすること』とは」という問いについて、隣どうしで話す時間を設けました。すると、話し合いの途中でDさんたちのペアが、「言葉にすること」だけじゃなくて、「言葉にすることや、言葉とは」にしてくれないと、考えにくい」と先生に伝えました。

先生 Dさんたちは、どうして「言葉にすること」だけだと困るのかな。

Dさん 周也は、「言葉にすること」はできているから。でも、受け止めることができないってことを書きたい。

Eさん Dさんは、周也は「言葉にすること」ができていと言ったけど、できていないと思う。実のない話ができるけど、本当の自分の気持ちを言葉にすることは、周也もまだできていない。

ないか、先生が問いかけてました。

Bさん 実は、お互いにあこがれている。

先生 どこにも「あこがれている」とは書いていないんだけど、どこを証拠にするのかな。

児童 律のほうは、「周也とちゃんとかたを並べて、歩いていけるのかな。」と心配しているところ。周也のほうは、「ぼくにはない落ち着きっぷりに見入っている」というところ。

Bさん 周也のほうは同じだったけど、律のほうは、「ここ一年でぐんと高くなった（中略）ぐんぐん前に進んでいくんだろう」というところ。

さらに、子どもたちから、「律」のみぞおちに刺さった問題の言葉、「どっちも好きってのは、どっちも好きじゃないのと、いっしょじゃないの。」についても、「実は」が出されました。

児童 問題の言葉は、律は重く受け止めていたけど、実は、周也は軽く言ったつもりだった。悪気がなかった。

先生 両方読んだら、同じ言葉でも、それぞれの立場で捉え方が違っていた。言葉に対して、「律」と「周也」は違いがあると思っただね。

先生 Eさんはどこからそう思ったんだと思う。

児童 周也視点の「2」の「何も言えない。言葉が出ない。」のところ。いい言葉を言おうとすると、何も言えなくなる。

児童 最後に、「投げそこなった。」とあるから、律がチャンスを作ってくれたのに、言葉にできなかった。

先生は、黒板に貼った「周也」の会話を指さして、問いかけてました。



先生は、子どもたちの発言から、次回の問いとして「二人にとって、『言葉にすること』とは」を提示し、二時間目の授業を終わりました。

③ 3時
「言葉」に対する
思いを捉える

三時間目の初め、前回言い残したことがあるというCさんが話し始めました。

Cさん 「1」の最後の「ぬれた地面にさつきよりも軽快な足音をききこんで、ぼくたちはまた歩きだした」と、「2」の最後「しめった土のおいがただようトンネルを（中略）受け止められたのかもしれない」のところで……律は、周也に初めて伝えたいことが言えて、周也は律のことを初めて受け止めた。そして変わった。

先生 今のCさんの言いたいことわかった？ 前の時間で見つけた問い、「二人にとって言葉にすることは、どういうものなのか、それについて違いがあるのか。」ということを考えていたら、Cさんの言いたいことがわかるか

先生 こんなこといっぱい言えるのにね。これまでプリンの他に、何言ってたかな。

児童 夏休みのこととか、一輪車のこととか。どうでもいいこと。

児童 だからピンポン玉の壁打ち。

児童 軽い。

先生 どうでもいい話をしていることは、周也に自覚があるのかな。

三時間目の最後には、二人が「言葉」や「言葉にすること」について、どう考えているのか、一文ずつ書く時間を設けました。

④ 4時
感想をまとめる

四時間目、それぞれが挙手をして、三時間目に書いた文を発表します。何人かが発表した後、Fさんが手を挙げました。

Fさん うまく言えないんだけど……。周也

子どもたちの感想文から

僕がすごいと思ったのが比喩です。律視点の比喩表現は、みぞおちの異物です。これは、あの周也が放った言葉がまだ胸に残っていることだなと思いました。こういう表現は、すごく分かりやすかったです。周也視点は、天気雨が降ったときにそれが無数の白い球みたいに見えたという比喩です。なんか、周也がぼんぼん放ってきたピンポン球の逆襲みたいですごかったです。

視点を変えて書かれた「1」「2」という構成は、読んでいてとても面白かったし、「2」でしか気づけなかったことがいろいろわかりなぞときをしている気分だった。この構成はとてもすばらしいと思う。私が一番面白いと思ったところは、三の場面である。なぜなら、律が周也の口数が減っていった原因を、返事をしないぼくに白けたと思っているが、実は律にいい球を投げようと考えているという、このもどかしさがなんかすごく好き！まだ、律のように上手く言い表せないが、もどかしいと感じるこのムズムズ感やドキドキ感が個人的に好き！

この作品は「クラスメイツ」に少し似ているなと思いました。具体的には、一つの出来事が何人かの目線に分けて描かれているところや、学校生活内のあるある(?)をモデルにしているところ。私は「カラフル」のような一人の目線で非現実的な事を描いている作品もとても好きです。でも、今回の作品のような描き方のほうがスッパリして共感できやすくなっているということがとてもすごいと思いました。

どちらかというと、私は律の視点で描かれているときの方が深く共感できました。私はいつも頭になんとかある感情をあと一步のところで出せません。必ず周也みたいな、自分の言葉をすぐ出せる人にたよってしまい、自分の意見が出せず、辛くなります。でも律が周也に自分の意見が言えたときに、私もがんばろうと思える、元気をもらうことができました。

また、物語を読み、「言葉にすること」について考えるきっかけにもなりました。前まではずっと言葉にすることは話すことだと自分で思っていたけれど、考えてみて、自分なりの答えが出ました。「言葉にすること」は、「自分の感情をその場に応じるように頭の中で語句を選び、話す。」ということです。私はまだ全然できていないけれど、この物語を読んで自分でちゃんとできるようになりたいと思いました。

授業者より

二人の視点で描かれるからこそ、それぞれの内面について読者だけが知り得る面白さを子どもに味わわせたいと思いました。

視点や人物の変容は、作品の特性から自然と学ぶことができます。加えて、等身大の登場人物を自分に引き寄せ、自分は「言葉」とどのように向き合っていくか考えさせることもねらいました。「自分はどちらのタイプに似ている？」と問いかけたのはそのためです。

自分の内面を見つめるという文学を読む意味を体験させることを意図したのです。



にとって『言葉にすること』とは、簡単なものだけど、難しいものでもある。」「先生 簡単なんだけど、(板書の「会話のキャッチボール」を指して) こういうことをしようと思うと難しい。律のところにも「難しい」って

書いていたよね。律にとっての「難しい」と周也にとっての「難しい」は違いそうだね。

児童 周也にとっては会話が難しい。僕も、「表面上は簡単だが、相手の言葉を受け止めて返すことは難しい」と思っている。」「って書いた。

児童 考えずに話すのはできる。深く考えるとできない。

児童 本当に心から思っていることは、言葉にできない。

「律」と「周也」の言葉に関わる思いについて話し合った後、先生は、「1」と「2」の天気雨の場面を音読する時間を設け、最後に問いかけました。「周也は投げそこなった。でも受け止めることができた」って思ったんだよね。この変容、前の時間にCさんが一生懸命言っていたことだね。」

「律」と「周也」の変容を捉えたところで、感想文を書くことを伝え、感想の手引きとともに、原稿用紙が配られました。

毎時間、授業が終わるごとに、話し足りない子どもたちが、先生のもとに集まる姿がとても印象的な四時間でした。

青山先生作成「感想の手引き」

「帰り道」感想の手引き

◆内容に着目して

- 「律」と「周也」の人物像や言動、考え方、二人の変化を、自分の経験と重ねて。
- 自分はどちらの人物に共感できたか。
- 題名から感じたこと、考えたこと。
- 物語をきっかけにして、「言葉」について考えたこと。
- 今後の二人は、あるいは二人の関係は、どのように変化すると思うか。

◆書かれ方に着目して

- 視点を変えて書かれた「1」「2」という構成に対して、どのように感じたか。また、それによって、どのような効果が表れているか。
- 言葉の使い方や比喩などの表現で、特に印象に残っていること。
- 伏線やその効果について、考えたこと。

★作品のみりよくについて



東京都生まれ。日本国語教育学会常任理事。全国国語授業研究会理事。著書に『青山由紀の授業「くちばし」「じどう車くらべ」「どうぶつの赤ちゃん」全時間・全板書』(東洋館出版)などがある。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。

新しい教科書、どう使う？ — 低学年編 —



川崎市立三田小学校
吉村 あかね 先生
Rikane Yoshimura

— 教科書をご覧になって、いかがでしたか

一年生の第一教材「いいてんき」はページをめくるたびわくわくしますね。私が一年生の担任だったら、教科書を開く前に、校庭へ散歩に行きたいと思います。初めての場所を知った



1上「いいてんき」

ど、言葉にも着目させる。それから、想像した音や色を思いながら、ひとりひとり音読してみるとよいでしょう。

「ききたいな、ともだちのはなし」では、話したり聞いたりする目的を理解することの大切さを、感じ取ることができるといいですね。教師も、「次の時間は校庭での遊び方を勉強するのだけど、その後、自由に遊んでいいです。ですから、おとなりさんの好きな遊びを聞いておきましょう。」など、子どもたちが話す、聞く必然性がある状況を作る工夫をしたいと思います。

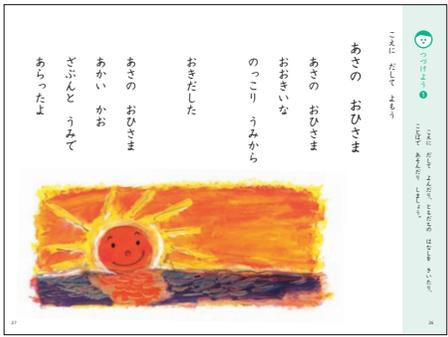
「たのしいな、ことばあそび」は、子どもが大好きな活動ですし、文字の学習や語彙を増やすことに最適です。子どもによってプラスアル

ファの学びができるように、ワークシートを用意するなどしたいですね。

— 二年生の教材はいかがでしたか。

新しく位置づいた「きょうのできごと」(二上32ページ)はいいですね！ 私の地域では、文集を作っているのですが、日々、書き溜めることができる単元があることがとてもうれしいです。事実を正確に書き記すこと、さらに、そのときに交わした会話や感じたことを入れると、その人らしさが出るということが、「たいせつ」として示されているのがいい。これからの書く力をつけていくのに大切な単元です。

「たんぼのちえ」(二上41ページ)は、生



1上p26-31「つづけよう①」

参考に、いろいろなジャンルの本を読んで、読書の幅を広げていきたいと思えます。

「あつまってはなそう」では、うまく話せない子にどんな言葉をかければいいのか考えさせることも大切ですね。「きみは、どう？」「うん」といったやりとりなども、コミュニケーションとして幅広く捉えていきたいです。

「えんぴつとなかよし」の唱え歌は、書くたびに思い出したいのですが、①クラス全員で、②一人小さな声で、③頭の中で、というように、少しずつ段階を踏みながら、二年生にむけて身につけていきたいと思えます。

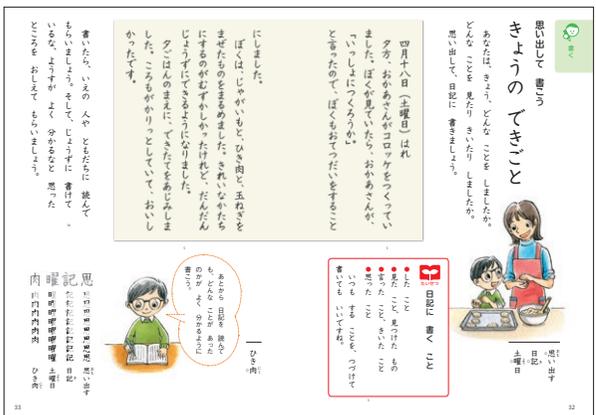
「こんなものみつけたよ」は、生活科の学校探検と合科的に扱えます。探検に行く前に、子どもたちとこのページを確認したいと思えます。

— 一年生の各学期にある「つづけよう」の三セット教材は、新しい試みです。

「こえにだしてよもう」は、最初の詩の学びですので、自由に想像を膨らませる楽しさから始めたいと思います。水平線から太陽が昇る写真を示し、様子を想像するなどして、導入するとよいかもしれません。想像を膨らませると同時に、「ざぶん」ってどんなようすかな」な

活科の栽培単元と結び付けて、自分が育てる野菜について、「ちえ」と「わけ」を調べてまとめる活動を取り入れたいですね。そこから、「かんさつ名人になろう」(二上52ページ)につなげる。記録を積み重ね、比較するという大切な力を育てる単元ですが、子どもによっては、モチベーションを保つのが難しい。「たんぼのちえ」「かんさつ名人になろう」の流れを生かし、学習を構想したいと思えます。

— ありがとうございます。



2上p32-33「きょうのできごと」

新しい教科書、どう使う？ — 中学年編 —



武蔵野市立桜野小学校
おむら さちこ
大村 幸子 先生
Sachiko Omura

— 「話すこと・聞くこと」のご研究をされていると伺いましたが、新教科書はいかがですか。

学習活動や指導内容がより一層充実しているという印象をもちました。新しく教材となった



3上p116-117「山小屋で三日間すごすなら」

た、対話の練習「山小屋で三日間すごすなら」（三上116ページ）「あなたなら、どう言う」（四上118ページ）は、小さな単元なので、指導事項を明確に指導できますね。学習時期が夏休み明けなので、ゲーム感覚で、楽しみながら取り組めるとよいかと思えます。「話し合い」の指導は、大きな単元の中で扱うと、活動に重きが置かれ、指導事項があいまいになりがちです。「対話の練習」が新しく入ったことで、小さな単元で「話し合い」について取り立てて学び、その後、大きな単元で実際に起こりうるような場面を設定して、使える力を身につけていくという学習の流れがより一層とりやすくなるでしょう。

— 年間を通したつながりも大切なんですね。

今回の教科書では、「言葉の準備運動」↓「聞く」↓「対話の練習」↓「話し合い」↓「話す」の順に単元が配置されています。教科書が「聞

く」ことから始まっているのは、とてもよいことだと思います。授業における子どもの姿を見ていると、「聞く」ことがなかなかできないのです。しかし、教師は、評価がしやすいスピーチに重きを置いてしまいがちです。聞くことをコミュニケーションの基本なのですが、指導が難しいという実態があります。

聞くことの指導においては、聞き方や質問の仕方といったスキル面だけでなく、相手の考えを認め、尊重するという情意面も大切にしたいと考えています。今回、各単元の「ふりかえろう」が充実しましたが、「もっと知りたい、友だちのこと」「ふりかえろう」（三上43ページ）には、「しつもんをする」と、どんないいことがありますか」とあります。このように、聞くこと、質問することのよさを振り返ることで、相手の考えを尊重しながら聞く姿勢を学ばせていきたいですね。

— 注目の新教材はありますか。

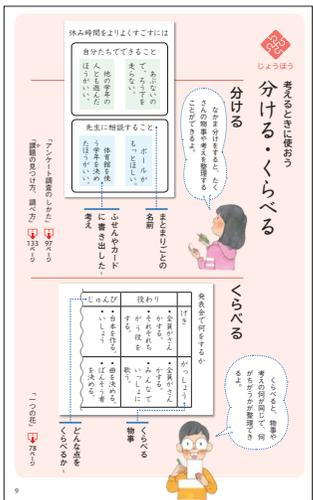
ぜひ活用したいのが、巻頭の情報教材「分ける・くらべる」（三・四上下巻9ページ）です。学年の初めに、小単元を設定して、ゲームのような感覚で楽しく取り組めるとよいですね。思

考に関わる内容は、どの単元でも大切な要素となってきましたが、教師から提示しないと、子ども自身では自覚的に身に付けていくことができない場合もあります。そこで、付せんを使って仲間分けしたり表を作ったりする活動を行い、その方法を教室に掲示するとよいと思います。そうすることで、年間のいろいろな学びに生かしていくことができるでしょう。

同じ情報教材の「全体と中心」「考えと例」も、新しい指導事項を子どもにどのような言葉で伝えればよいのかが、わかりやすく言語化されているので、説明的文章を学習する前に時間をとって指導しようと思います。

— 新学習指導要領では、読書も重視されています。

「本は友達」（三上100ページ・四上102ページ）



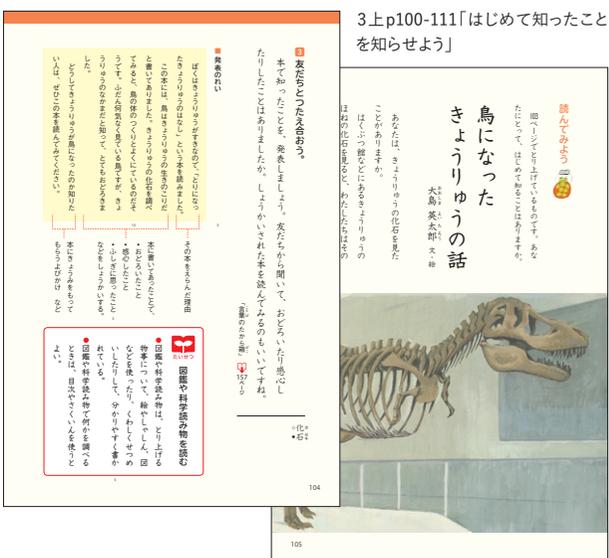
4上p9「分ける・くらべる」

は、作品も新鮮ですが、単元の作りが新しいなと驚きました。これまでの教科書では、読み物教材を学習した後に読書活動が位置づけられていました。新教科書では、読書活動の後に、参考資料のような扱いで読み物が掲載されています。本に親しむ活動が学習の流れの中心となっていて、まさに「本は友達」といえる単元の作りですね。

例えば、三年では、「鳥になったきょうりゅうの話」について発表するという活動が設定されています。発表している例（三上104ページ）を見てみると、本のテーマ、詳しい説明、自分の考えといった発表のポイントがわかりやすく示されています。そのポイントを意識しながら、後に掲載されている「鳥になったきょうりゅうの話」を読むと、文章のどの部分をどのように抜き出したり、言い換えたりして発表するのか、参考にできます。こうした学習の流れは、子どもの思考に合っているのではないかと思います。

— 全体として、新しい教科書にどのような印象をもたれましたか。

手引きがとても丁寧ですね。指導事項を子どもにどう伝えるのが、具体的に書いてあった



3上p100-101「はじめて知ったことを知らせよう」

り、子どもの姿が載っていたりするので、教材研究に役立ちそうです。

特に、発表や文章の例が充実しています。学習で押さえない要素がきちんと盛り込まれて、ポイントが示されています。まずは教師が教科書に書いてある発表や文章の例を分析して、指導の手がかりにし、教科書を活用したいと思います。

— ありがとうございます。

新しい教科書、どう使う？

— 高学年編 —



関西学院初等部
野村真一先生
Shinichi Nomura

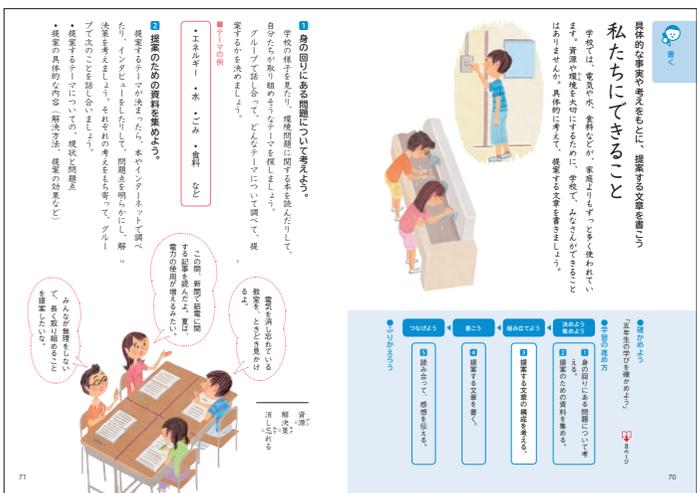
— 五年生には、説明的文章「言葉の意味が分かること」が新しく掲載されました。

旧版の「生き物は円柱形」がきれいな双括型をしていたので、新しい教材はどうなるのかなと思っていたのですが、「言葉の意味が分かること」(五年48ページ)も、とてもわかりやすい双括型ですね。題材は違っても、まったく同じ構造で書かれているので、旧版と新版との比較もおもしろいと思います。

もちろん、プレ教材「見立てる」の構成とまぶったり同じです。高学年になると、一学期説明文の二教材一単元構成にも慣れてくるので、「見立てる」を読んだ子どもたちは、「何が一緒なんだろう」という目で「言葉の意味が分かること」を読むと思います。まったく同じ構造であることを、子どもたち自身で見つけられるかもしれません。

— 「情報」の系列も新設されました。

六年の「情報と情報をつなげて伝えるとき」(六年68ページ)は、小さな単元なので、さらっと済ませてしまいがちですが、かなり歯ごたえがあります。特に1と2の文章の共通点を見つける部分は、書かせる前に、授業で話し合ってからキーワードを抜き出し、足場を作ってから取り組みたいと思います。



6年p70-75「私たちにできること」

— 学期らしく、構成を捉えやすい文章だということですね。

構成を捉えることが、この単元のねらいである要旨を捉えることにつながります。僕はよく、具体的事例を下に下げて文章構成図を書くのですが(図1参照)、要旨要約をするときには、まず、より抽象的な筆者の主張だけを取り出すことを指導します。双括型の場合は、冒頭と最後をミックスして要旨をまとめる。具体的事例は筆者の主張を下支えするものなので、要旨を捉えるときは切ってもいい。ただ、本当におもしろいのは具体的事例なので、断腸の思いで削る。その後、字数に合わせて拾いにいくように指導します。

学習ページでは一五〇字以内で要旨を書いていますが、まずはどの子もプレにくい一〇〇字で書き、できた子は一五〇字でとステップを踏んでいきます。その後、字数に合わせて拾いにいくように指導します。

— その後に続く「私たちにできること」(六年70ページ)は、いかがでしたか。

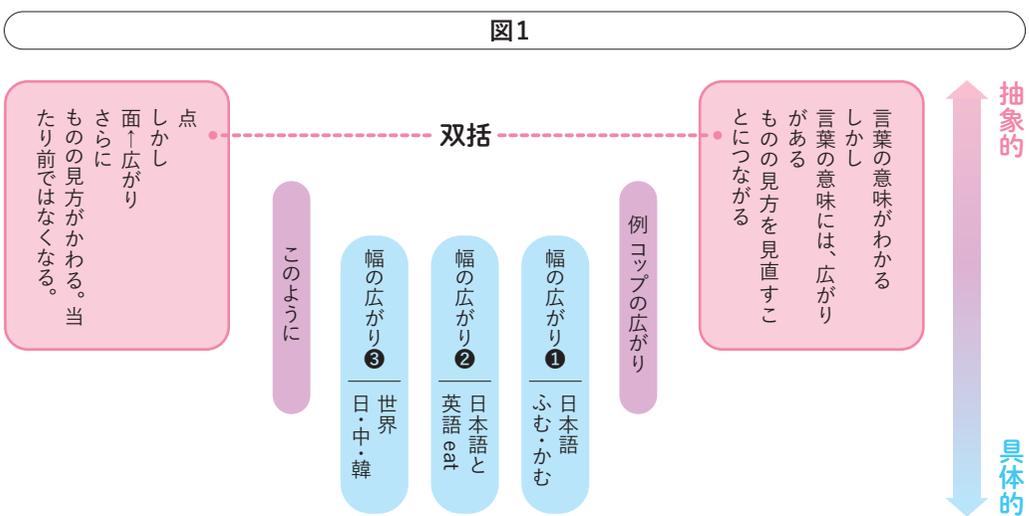
骨のある単元なので、下準備が大切ですね。まず、現状と問題点について、しっかり扱う。感覚だけでなく、学校の水道代や光熱費を、家庭と比べて、社会科での経験を思い出したりして切実感を出したいところです。他教科等とコラボすることが大切な単元だと思います。

子どもたちが話し合っている場面の吹き出し(73ページ)は、大事なポイントを網羅しているか」という点が提案の肝です。ここをしつかり書けると、おもしろくなると思います。僕なら、作例の解説をもとに、「きっかけとなった経緯」「現状や問題点」をひとまとまり、「提案すること」「提案理由」「具体的な内容」をひとまとまりにして扱い、「提案による効果」に、より重点をかけたと思います。

— 他に印象的な単元はありましたか。

「大切な人と深くつながるために」(六年193ページ)は印象深いですね。鴻上尚史さんの「コミュニケーション力って、うまくいかないとき

みたい。一学期なので要旨が書ける子を増やして、自信をもたせてあげたいと思います。



6年p193-195「大切な人と深くつながるために」

に発揮するものなんだよ」というメッセージは、感じ入りました。自分自身が目指したいと思っている真ん中を書いてくれている。さらに、動画資料で解説もしてくれている。

六年生の後半から、池上彰さんや鴻上尚史さんの文章、最後に中村桂子さんの「今、あなたに考えてほしいこと」(六年240ページ)がある。この卒業に向けての流れは、感動的ですからありますね。国語は、最終的には人と人とのつながりあうためのツールですので、六年生の最後は、文章の中心について存分に語り合いたいです。きっと編集部もそれを意図して教科書を構成されたと思うので、教師としても、この意図を汲んで授業をしたいと思います。

— ありがとうございます。



新連載
第1回
教科書で、
書写力アップ!

習慣化 したいこと

広島大学大学院教授
松本仁志

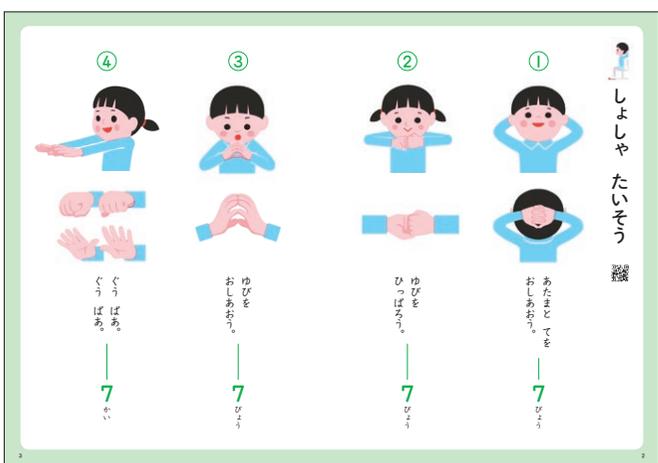
「しよしゃ体操」で
集中力を高める



まずは、授業の初めに「しよしゃ体操」をすることを習慣化しましょう。
「手元に集中して緊張しながら練習する。」そんなイメージが強い書写ですが、緊張状態が続くとすぐに疲れて集中力の欠如につながってしまいます。字形を意識しながら書くという行為はどうしても体を緊張させてしまうのです。しよしゃ体操をすると、いい姿勢を維持できるようななるのはもちろん、書写に必要な筋肉がほぐれ、血の巡りがよくなり、リラックスした状態で授業に臨めます。子どもの様子を見て、授業の途中で取り入れてもよいと思います。また、「しよしゃ体操」で体を動かすことで、

新連載がスタートしました。教科書で「書写」を効果的に学ぶためのポイントについて、三回にわたってお話しします。初回のテーマは「習慣化したいこと」。学習を習慣化することで、子どもの理解が深まり、先生の書写力もアップします。

授業前のザワザワとした気持ちだが、書写の学習に向いていきます。朝の帯学習の効果に、子ど



1年p2-3「しよしゃ たいそう」

もの気持ちを静めて授業に入るための構えを作る、ということがありますが、それと同じ効果があります。全教科の授業で有効ですし、先生方にも職員室でのデスクワークに入る前の「しよしゃ体操」をおすすめします。

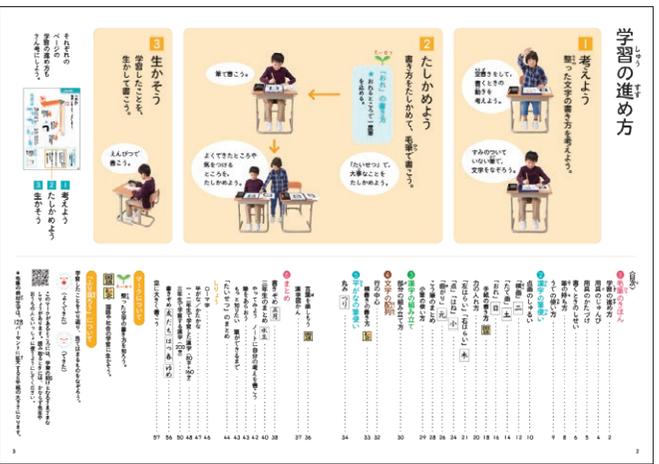
「学習の進め方」で
学習意欲を持続させる



毛筆が始まる三年生のタイミングで「学習の進め方」を意識することを習慣化しましょう。学習意欲を持続させるには、学びの目的を理解することや、学びの成果を自身で実感することが大切です。そのため教科書では、書写の「学習の進め方」を「考える↓確かめる↓生かす」という、いたってシンプルな構造で捉えています。

まず、学習課題についてしっかりと「考える」ことから入ります。説明を聞いて知るよりも、考えて気づくことの方が理解の定着度が高いことは言うまでもありません。

次に、その気づきを学習課題として、毛筆で「確かめる」活動が続きます。漢字や仮名は、毛筆で書き継がれる中で発達してきた文字ですので、例えば、終筆のしめ、はね、はらいのように毛筆書字から生まれた特徴を多く残しています。毛筆を使用する学習は、毛筆を使用してい



3年p2-3「学習の進め方」

た過去を現代の私たちが追体験することであり、学びが深まるだけでなく効率もよいのです。さらに「生かす」では、毛筆で確かめた学習課題を日ごろ使っている硬筆に応用することで、日常に生かすという書写の学びの目的への理解を促します。「考える」で気づいた学習課題が硬筆で実現できれば成果も実感しやすいでしょう。子どもの中には「普段使わないのにどうして毛筆なんかやるのだろう」という疑問をもつ子もいますので、毛筆で「確かめる」で終わらずに、硬筆で「生かす」ところまでを行うことがとても大切です。また、書写が苦手な先生も、この学び方で子どもと一緒に学習すれば、書写力がアップしますし、指導のポイントや子どもの書く文字への理解も深まります。

国語等との関連学習で
学びの日常化を図る



書写の学びが日常のどのような場面で生じるのかを仮体験させるのが、国語や他教科との関連学習です。前述の「生かす」の延長線上にある学習活動です。国語との関連学習として例示している「インタビューメモの書き方」(五年)

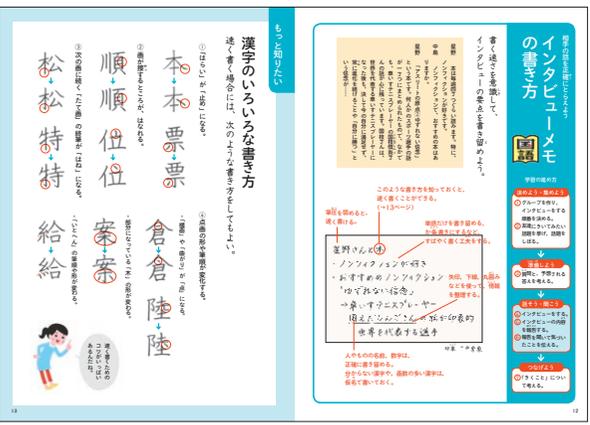


松本仁志
1964年、千葉県生まれ。専門は書写書道教育。光村図書 小・中学校『書写』教科書編集委員。著書に『筆順のはなし』(中央公論新社)などがある。



では、正確に聞き取る力やまとめる力だけでなく「速く正しく書く」という書写力が必要とします。他教科の関連を示す教材は、一年生から継続的に位置づけていきますので、その都度確実に実施して、日常生活や学校生活で行われる言語活動において、書写の学びが生きていることを子どもに強く意識づけましょう。そして、子ども自身が書写の学びを日常に開くことを習慣化できるようにしたいものです。

今回のテーマは「思考力をきたえる」です。



5年p12-13「インタビューメモの書き方」



作・画／あべかよこ 監修／興水かおり

教科書との出会いを、 楽しんで!!

こしみず・かおり

広島県生まれ。元 玉川大学客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長、玉川大学客員教授等を務める。光村図書小学校「国語」教科書の編集委員。



※「QRコード」は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。



学びをわくわくさせるのは デジタル教科書だ。



好評
発売中!

ラインナップ

令和2年度版教科書対応

学習者用 [1ライセンス/1ユーザ]

デジタル教科書

- 国語…1～6年 各800円+税
- 書写…1～6年 各300円+税
- 道徳…1～6年 各500円+税
- 英語…5・6年 各500円+税

学習者用 [1ライセンス/1ユーザ]

デジタル教科書+デジタル教材

- 国語…1～6年 各1,400円+税
- 英語…5・6年 各1,000円+税

指導者用 [学校フリーライセンス]

デジタル教科書(教材)

- 国語…1～6年
各72,000円+税/各24,000円+税(1年間利用)
- 英語…5・6年
各58,000円+税/各19,000円+税(1年間利用)

光村図書 デジタル教科書 & デジタル教材



表示ソフトウェアは、「まなビューア」を採用しています。



▼詳しい商品情報はこちら

www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_digital

小学校 国語教育相談室 通巻 NO.192 2020年4月1日発行

発行人 小泉 茂
発行所 光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675
電話: 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所 協和オフセット印刷株式会社
デザイン 望月昭秀+片桐凜子 (NILSON)

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書